国語科（国語総合）学習指導案（例）

|  |  |
| --- | --- |
| 日　　時 | 令和○年○月○日（○）　第○校時 |
| 学年・組 | ○○科　第○学年○組（男子○名、女子○名） |
| 教 科 書 | 「国語総合」（○○出版） |
| 指 導 者 | ○○高等学校　教諭　○○○○ |

**１　単元名（教材）**漢詩の表現に即して心情や情景を読み味わう

（唐詩「春暁」「送元二使安西」「涼州詞」「静夜思」）

**２　単元の目標**

（１）文章に描かれた人物、情景、心情などを表現に即して読み味わおうとしている。（関心・意欲・態度）

　（２）文章に描かれた人物、情景、心情などを表現に即して読み味わう。　　　　　　　　　 （読む能力）

　（３）訓読のきまりなどを理解している。　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　 　（知識・理解）

**３　単元の指導観**

　（１）生徒の実態

　　　　漢文においては、１学期に基本事項を学んで以降、故事成語（２編）、寓話（２編）、唐詩（４首）と読み進めてきた。現在（３学期）、生徒は訓読の基本はおおむね理解している。しかし、使用している教科書に語注が丁寧に付けられているせいか、自ら漢和辞典を使って語句の意味を調べる生徒は少なく、大半の生徒は、教科書の語注を見て満足してしまっている。学習態度は比較的良好であるが、主体的に学ぼうとする姿勢が不足している。

　（２）教材観及び指導の方針

　　　　唐詩は比較的平易であり、語句を手がかりにして描かれた情景や心情を味わわせる教材として適している。上記（１）の実態を鑑み、授業では、生徒に漢和辞典を使用させ語句の意味を調べることで、主体的に詩を味わえるような学習活動を取り入れていく。

**４　単元の評価規準**

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 関心・意欲・態度 | 読む能力 | 知識・理解 |
| ・詩に描かれた情景や情を、表現に即して読み味わおうとしている。 | ・詩に描かれた情景や心情を表現に即して読み取り、詩の内容を理解している。 | ・漢詩のきまりや訓読のきまりを理解している。 |

**５　単元の目標を実現するために取り入れる言語活動**

　　詩に描かれた情景や心情をグループで話し合い、クラス全体に発表する。

**６　単元の指導計画と評価計画**

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 次 | 時 | 主な学習活動 | 評価規準との関連 | 評価方法 |
| １ | １ | ・４首の詩を、教師の範読のもとに音読する（斉読→個人）。  ・詩の印象を表す一語をそれぞれ考え、ノートに書く。  ・なぜその一語を考えたか、周囲の生徒と意見交換をする。  ・気に入った詩を一首選ぶ。 |  |  |
| ２ | ２本時 | ・前時に各自があげた「気に入った詩」をもとに、生徒を  ８程度のグループに分けてグループ活動を行う。  ・グループごとに、「漢詩のきまりに関すること（形式、押  韻、対句など）」「用字法・句法に関すること」をワーク  シートにまとめる。 | 【知識・理解】 | 記述の点検 |
|  | ３ | ・前時にグループでまとめた詩の解釈をもとに、「詩に描か  れた情景や心情」を考え、「気に入った」理由を振り返る。  ・話し合った「詩に描かれた情景や心情」をA３用紙にま  とめる（発表準備）。 | 【読む能力】 |  |
| ３ | ４ | ・まとめたことをグループごとに発表する。  ・聞いているグループは、必ず質問をする。  ・発表を聞いて、自身の考えが変化したか等を振り返り、  評価シートにまとめる（個人）。 | 【関心・意欲・態度】 | 記述の確認、行動の観察 |

**７　本時の指導計画**

（１）本時の目標

　　・漢詩のきまりや訓読のきまりを理解する。（知識・理解）

（２）本時（第２時）の展開

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 時間 | 生徒の学習活動 | 指導上の留意点 | 評価規準 |
| 導入  ５分 | **前時までの学習内容の振り返りと本時の目標の理解**  ①本時の目標を確認する。  ②詩４首を斉読する。  ③教師の説明を聞き、グループ学習の進  め方を確認する。 | ○本時の目標を理解し、目的意識を持っ  て授業に取り組ませる。  ○グループは、第１時に生徒があげた「気に入った詩」（１首）をもとに、３～４人で編成しておく。 |  |
| 展開  40分 | **グループ学習**  ④各グループで担当する詩について、「漢詩のきまりに関すること（形式、押韻、対句など）」「用字法・句法に関すること」を確認する。  ⑤語句の意味を調べたり、口語訳をした  りして、詩の解釈を話し合う。  ⑥話し合った結果をワークシートにま  とめる。 | ○グループに分かれて着席させる。  ○文法書、漢和辞典、便覧を用意させ、  使用するよう指示する。  ○机間指導を行い、漢和辞典を使用するよう促す。  ○ワークシートに黒色の太字のペンで白文を大きく書かせる。  ○「漢詩のきまりに関すること（形式、押韻、対句など）」や「用字法・句法」を書き込ませる。  ○調べたこと、話し合ったことなども記入するよう伝える。  ○分かりやすくなるよう工夫するよう促す。  ○ペンは３色以上準備しておく。  〔努力を要するグループへの指導〕  ○文法書の見方、漢和辞典の引き方を指導する。  ○活動が早く終わっているグループは、他の詩についても調べてみるよう促す。 | 【知識・理解】  漢詩のきまりや訓読のきまりを理解している。  記述の点検 |
| まとめ  ５分 | **本時の振り返りと次時の学習内容の確認**  ⑦本時のまとめと、次時の学習内容に関する説明を聞く。 | ○本時のまとめを簡潔に行う。  ○次時の学習活動等を説明する。 |  |

**８　資料等**